

平成28年度教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」実施報告

- 1 趣 旨** 小学校5・6年生を対象に、初めて出会った仲間と約1週間かけて、公共施設や民宿等で寝食を共にしながらの淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間と協力することを学ぶとともに、人間としてのたくましさを育むために実施した。
- 2 期 日** 平成28年8月21日（日）～28日（日） 7泊8日
- 3 募集定員** 16名
- 4 参加者** 21名
- 5 参加者内訳** 小学5年生7名、6年生14名（男子6名、女子15名）
（南あわじ市7名、洲本市3名、淡路市4名、神戸市2名、西宮市1名、三木市1名、伊丹市1名、芦屋市1名、東京都1名）

6 実施プログラム

	日時	活動内容	宿泊場所	移動距離
8月21日（日） 天気：晴れ 最高気温： 34.2℃	10:00～10:15 10:15～10:40 10:40～11:10 11:10～ 19:00 19:15～20:45 21:20～22:00 22:30	受付（交流の家） スタッフ紹介、アンケート実施 決意表明発表・出発式 出発 1・2班到着 ※3班は到着できず（残り2.4km） 入浴（ゆとりっく）・夕食 ふりかえり 就寝	南あわじ市 伊加利公民館	1.9km
8月22日（月） 天気：晴れ 最高気温： 35.4℃	4:00～ 5:00 5:00～ 17:00～18:00 18:30～20:30 20:30～21:00 21:30	起床・準備 出発 ※3班は前日のゴール地点から出発 1・2班到着 ※3班は到着できず（残り6km） 夕食・入浴（ゆーゆーファイブ） ふりかえり 就寝	洲本市立 都志小学校	2.4km
8月23日（火） 天気：晴れ 最高気温： 33.8℃	4:00～ 5:00 5:00～ 17:00～18:00 18:20～20:00 20:00～21:00 21:15	起床・準備 出発 ※3班は前日のゴール地点から出発 1・2班到着 ※3班は到着できず（残り9km） 入浴（松帆の郷）・夕食 ふりかえり 就寝	民宿平林荘	2.9km
8月24日（水） 天気：晴れ 最高気温： 34.0℃	4:00～ 5:00 5:00～ 18:00 19:00～21:00 21:30	起床・準備 出発 ※3班は前日のゴール地点から出発 チャレンジ終了 ※全班が到着できず （1班：残り500m） （2班：残り1km） （3班：残り5.5km） 入浴（パルシェ香りの湯）・夕食 就寝	津名高校 同窓会館	2.9km

8月25日(木) 休息日 天気：晴れ 最高気温： 34.2℃	6:00～ 7:00～ 7:30 8:30 9:30～11:30 11:45～12:00 12:00～14:45 15:00～16:40 17:00～19:00 20:30	起床 出発 ※1・2班のみチャレンジ、3班は休息 到着 前半のふりかえり 昼食場所へ移動 昼食・夕食の買出し 入浴(パルシェ香りの湯) 夕食作り・夕食 就寝	津名高校 同窓会館	0 km
8月26日(金) 天気：晴れ 最高気温： 34.4℃	4:00～ 5:00 5:00～ 16:00～17:00 17:00～19:30 19:30～20:30 21:00	起床・準備 出発 ※3班は24日のゴール地点から出発 到着 入浴(エトワール生石)・夕食 ふりかえり 就寝	洲本市立 由良公民館	2.2 km
8月27日(土) 天気：晴れ 最高気温： 30.4℃	4:00～ 5:00 5:00～ 15:00～17:00 18:00～19:00 22:00	起床・準備 出発 到着 夕食・入浴 就寝	国立淡路青少年 交流の家	3.1 km
8月28日(日) 天気：晴れ 最高気温： 30.8℃	6:30 6:55 7:20～ 9:30 9:30～11:30 11:50～13:00 13:00～15:00	起床・準備 朝のつどい 朝食・退所準備 全体まとめ 昼食・休憩 報告発表会・閉会式		

※最高気温は、気象庁発表のデータを記載(8/21・8/27・8/28:兵庫県「南淡」、8/22～8/25:兵庫県「郡家」、8/26:兵庫県「洲本」)

7 プログラム内容 参加者の成長段階に応じた支援ができるよう、7泊8日のプログラムを下記のように大きく5つのステージに分けて運営した。

【第1ステージ：技術習得と目標設定・仲間作り】

8月21日(日)：国立淡路青少年交流の家→南あわじ市阿那賀地区(1.9 km)

8月22日(月)：南あわじ市阿那賀地区→洲本市都志地区(2.4 km)

保護者の前で「ジュニアチャレンジ淡路島一周」に対する決意表明を行い、チャレンジがスタートした。最初は仲間作りを兼ね、当施設の活動プログラムを盛り込み、班で目標物を探したり、ルートについて話し合いながら歩き進めた。地図の読み方やペースについてはボランティアスタッフが参加者にアドバイスを送りながら歩いていたが、2日間共に、暑さもあり、なかなかペースがつかめず、時間内に目的地に到着することができない班もあった。

日々のふりかえりでは決意表明で発表した目標を達成できたかを考え、毎日、次の日の目標を再設定するとともに、グループでどうやったら良いペースで歩けるか、目標に達成できるかを考えた。



【第2ステージ：信頼関係の構築とチーム作り】

8月23日（火）：洲本市都志地区→淡路市野島地区（29 km）

8月24日（水）：淡路市野島地区→淡路市志筑地区（29 km）

第2ステージからはボランティアスタッフの介入を減らしていき、子どもたち自身で地図の確認やペース配分を考えるよう促した。話し合う機会が増えたこともあり、他の班員の体調を気遣う姿や、励ます姿が多く見られるようになった。

ふりかえりでも徐々にチームの一員として自分が何をすべきかを考えたり、どうしたら班で上手く歩いていけるかを自然と相談したりと、少しずつであるが班の一体感が生まれてきた。



【第3ステージ：前半のふりかえりと目標の再設定】

8月25日（木）：ふりかえりと休息、交流プログラム

前半の4日間のチャレンジに対し、自分自身が頑張ったことや他の班員が頑張ったこと、班の課題についてふりかえた。それぞれから出た課題は、改善、解決できるよう時間を設け、しっかりと話し合った。最後には淡路島一周を踏破するために、それぞれの班で目標を立て、全体で共有した。

交流プログラムでは、班で夕食作りを行った。食事メニュー、予算共に班で相談してもらいながら買出し、調理を行った。期間中は弁当ばかりだったこともあり、久しぶりの温かい食事にみんな喜んでいた。



【第4ステージ：ラストチャレンジ】

8月26日（金）：淡路市志筑地区→洲本市由良地区（22 km）

8月27日（土）：洲本市由良地区→国立淡路青少年交流の家（31 km）

ふりかえりでたくさん話し合ったこともあり、休憩やペース配分等に工夫や協力が見られ、どの班もしっかりとペースをつかむことができた。26日には、ずっと遅れていた3班が他の班に追いつくことができ、無事にゴールすることができた。最終日は、31 kmと最長の距離で起伏の激しいコースではあったが、全ての班が無事に到着することができた。



【第5ステージ：全体のまとめとこれからの目標設定】

8月28日（日）：全体のまとめ、宣言文の作成と発表、閉会式

「チャレンジしたことや、がんばったこと」、「自分のことについて、気づいたこと」、「グループのことについて、気づいたこと」、「淡路島一周して感じたこと、学んだこと」、「これから家や学校に戻ってがんばっていききたいこと」についてまとめ、宣言文を作成し、保護者の前で発表した。



8 参加者の声

（最終日に書いた「私の宣言文」、アンケートより）

- ・班のみんなにはそれぞれ良いところがあり、それぞれ長所を生かし合いながら歩くことができた。
- ・淡路島には素晴らしい自然があることに気づいた。
- ・応援してくれた人、励ましてくれた人、そして家族に感謝したい。
- ・みんながお互いのことを大切に思うことができた。
- ・マイナスをプラスに思うことが大事だと思った。つらい時も大丈夫と思うことで、歩き続けることができた。
- ・疲れたり、マイナスなことを言ってしまったとしても、「あきらめない」という目標を大事に、仲間と協力したり、励まし合ったりして、最後まで歩き続けることができた。
- ・地図では小さかったけど、歩いてみると淡路島が大きいことに気づいた。
- ・1日に30kmも歩く力があることに気づいた。
- ・最初は泣いた子がいたり、道に迷ったりしてバラバラだったグループが、話し合いができるようになり、まとまることができた。
- ・なんでも勇気を持って挑戦すればきっと成功すると思えるようになった。
- ・最初はがんばって意見を言おうとしていたが、最後の方には自然と自分の意見を言えるようになった。
- ・話し合いの大切さを学んだ。これからは人の話を聞き、自分の意見を言えるよう頑張りたい。

9 成果

- ・日々のふりかえりや最終日に書いた「私の宣言文」の内容から、「仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。」という事業の目的は概ね達成できた。また、事業前後に実施した。また、IKR（生きる力）調査のアンケートでも、「生きる力」の項目に有意な向上が見られた。
- ・歩いている際に地域の方々からあたたかい声援をいただくことができ、事業開始から5年目を迎え、国立淡路青少年交流の家の事業として、広く認知されてきたように感じた。
- ・参加者から、「この先大きくなったらボランティアスタッフとして参加したい」という声を多くいただき、次世代のリーダー育成に繋げることができた。
- ・一時期は9km以上離れてしまった班もあったが、あきらめずに頑張れば歩けば目標を達成できるという子どもたちの能力や可能性を改めて感じさせられた。

